

第4回「戦争と医の倫理」の検証を進める会・世話人会報告

- ◇日時 2010年6月6日(日) 11時～16時
◇場所 東京保険医協会会議室
◇参加者 西山勝夫代表世話人、赤羽根巖、苮昭三、小俣和一郎、車谷容子、肥田泰、光石忠敬、山口研一郎、吉中丈志各常任世話人、飯塚讓、刈田啓史郎、末永恵子、田中智彦、長島隆、松村高夫、村林彰各世話人
(事務局) 木村徳秀、長瀬文雄、原文夫、室井正、小林耕冶各氏
(オブザーバー) 岩崎保団連事務局次長 (保団連医療研究集会担当)

※ 今回の会議より、前半はA、B、C各群別の担当者会議、後半を全体会議とすることを基本に運営することとした。

<各群別会議>11時～13時50分

1. 各群別の合同会議 (11時～12時) 司会：吉中常任世話人

各群別で今後の作業を具体化する前提として、前回の実行委員会からの参加者と今回の進める会からの参加者がいることから、前回までの歴史検証の到達点について認識を共有するため、苮常任世話人を講師に学習会を行った。

苮常任世話人からは、「前回パネル展示の概要と今後の課題(私見を含む提言)」と題して前回の展示内容を概説するとともに、来年4月の展示に向けた検証課題も提言された。

提言の主なものは、①この検証を通じて現代のあるべき「医の倫理」が透視できるよう配慮工夫、②南京1644部隊との関連、③化学兵器との関連、④ニュールンベルグ裁判及びドイツ医師会の対応との比較検討、⑤GHQ一連の「731部隊関係者の調査報告書の概要」など多様な課題が示された(詳細は、当日配布資料のレジメ参照)。この内容はA群担当でも検討する。

若干の質疑後、各群別に分かれて会議を開いた。

2. 各群別会議 (12時40分～13時50分)

各群別の責任者と参加者は、以下のとおり。

*A群(歴史検証)

会場 セミナールームB

責任者 吉中常任世話人

参加者 苮、刈田、松村、村林、原、木村、小林各氏

*B群(国際シンポ)

会場 事務所内会議室

責任者 小俣常任世話人

参加者 西山、長島、室井各氏

*C群(医療倫理)

会場 セミナールームA

責任者 山口常任世話人

参加者 赤羽根、肥田、光石、車谷、長瀬各氏

<全体会議>14時～16時

◇ 議長 西山代表世話人

議長より、初参加の長島隆世話人（東洋大学教授）の紹介があり、挨拶が行われた。

◇ 報告・協議事項

1. 前回会議報告の確認について

第3回常任世話人会（10.4.11）会議報告は、了承した。

2. 保団連医療研究集会でのシンポの企画案について

前回提案された「医療倫理シンポ」の趣旨も生かし、下記概要で準備することを了承した。

*名称 【市民公開企画】シンポジウム「戦争と医の倫理」を検証する

*日時 2010年10月10日（日）13:00～16:00

*場所 東京・都市センターホテル

*趣旨 保団連医療研究集会では、2005年の大阪医療研で、「医師・医学者の戦争責任を考える一関東軍731部隊をめぐって」をテーマに国際シンポジウムを開催、初めて医師・医学者の戦争責任の問題を取り上げ、内外に大きな反響をまき起こした。その後、2007年の福岡医療研では、九大生体解剖事件に焦点をあて、再び医師の戦争責任の問題を、2008年の宮城医療研では、東北の視点から戦争と医療の問題を取り上げるなど、継続した取り組みを行ってきた。

昨年9月27日には、第28回日本医学会総会（2011年4月8日～10日・東京）に向けて、『戦争と医の倫理』の検証を進める会が設立され、戦争への加担の歴史を検証する作業がすすめられている。医学者・医療人の姿勢は人命に直結するだけに、医学界・医療界が自ら進んで検証を行い、国民に発信することが重要になっている。

シンポジウムでは、①731部隊などの人体実験を中心とする歴史、②日本とドイツを中心とする国際的な比較、③将来への医学・医療への提言を含めた医療倫理の3つの分野から、検証の今日的な到達点と課題を報告していただき、戦争と医の倫理についての医療人としての関わり方と、今後の方向性を提起していきたい。

*パネリスト、コーディネーター等

<パネリスト> ○京都民医連中央病院院長 吉中丈志氏

○上野メンタルクリニック院長 小俣和一郎氏

○現代医療を考える会代表 山口研一郎氏

<山口氏の補足発言> ・東京海洋大学教授 小松美彦氏

・金沢大学医学部助教 打出喜義氏

・大阪市立大学准教授 土屋貴志氏

<コーディネーター> ○滋賀医科大学名誉教授 西山勝夫氏

*運営案

13:00 開会挨拶（5分） 保団連理事 齊藤みち子氏

13:05 挨拶及び運営説明（5分） 西山勝夫氏

13:10 各パネリストの発言（55分）

①吉中丈志氏（13:10～13:35） 25分

・十五年戦争における日本人医師の戦争医学犯罪

②小俣和一郎氏（13:35～14:00） 25分

・戦争医学犯罪の戦後 日本とドイツ（における歴史検証を比較する）

③山口研一郎氏（14:00～14:15） 15分

- ・医療倫理の確立のために不可欠な歴史検証
- 14:15 休憩 (10分)
- 14:25 山口研一郎氏の補足発言 (30分)
 - 小松美彦氏 (14:25~14:35) 10分
 - ・現代医学における『生』と『死』－脳死・臓器移植問題をめぐって
 - 打出喜義氏 (14:35~14:45) 10分
 - ・現代医学における『治療』と『実験』－金沢大学附属病院無断臨床試験訴訟をめぐって
 - 土屋貴志氏 (14:45~14:55) 10分
 - ・現代医学における『過去』と『現在』－731部隊の検証を通して
- 14:55 フロア討論 (55分)
- 15:50 まとめ (10分) 西山勝夫氏
- 16:00 閉会

3. 当会独自企画案の具体化について

(1) A群：歴史検証（パネル展示）の準備について

責任者の吉中常任世話人より、提案メモ（当日配布資料参照）をもとに検討した結果の報告が行われ、了承した。その要点は下記のとおり（細目は、別途作成の「まとめ」参照）。

- [1] 歴史検証の目的 ①医学界による戦争への加担の実態を明示、②医学界が戦後、隠蔽、忘却した経緯を事実で示す、③前記検証を通じ医の倫理に関する現代的課題の検討
- [2] 展示物作成基本方針 展示パネルの大項目は、①はじめに、②時代背景、③加害と戦争協力、④医学犯罪の免責と隠蔽、⑤現代的課題の5項目で整理
検証作業の体制は、①東京での作業を円滑に推進のため東京責任者を設置、②監修委員を置き、精査、助言等を依頼、③項目別に作業チームを設置して推進
- [3] 日程とテンポ ①8月＝各責任者から各項目の概略提示と作業提案、9月＝中間検討（10月保団連医療研究集会）、11月＝基本骨格決定、来年2月＝展示パネル作成

(2) B群：来年4月の国際シンポの開催準備について

①ドイツ代表のティル・バステアン氏に、日時が確定したら招聘状を送る。

なお、小俣常任世話人より、ティル・バステアン氏が来日できないときの候補として、エルンスト・クレー氏（ジャーナリスト）をあげ、フランクフルトで会った経過などが報告された。日本の戦争医学犯罪（731部隊等）について、ドイツでは未知であり、出版物もほとんどないことなども報告された。

②国際シンポジウムの開催日時などは、下記で実施することとした。

- ・日時 2011年4月9日（土）午後3時～3時50分 日野原重明先生の特別講演
演題「オスラーの戦争と平和に対する考え方」
(10分休憩)

午後4時～7時 国際シンポジウム

午後7時15分～9時 懇親会

- ・会場 東京大学 鉄門記念講堂（医学部教育棟14階）400人規模
- ・懇親会会場＝<カポ・ペリカーノ>（医学部教育棟13階）

（団体貸切150人までOK。講堂借用と合わせて医学部施設係に申請）

なお、会場費用は15万円～20万円。懇親会費用も一人5千円～6千円程度。

③パネル展示会場の候補について

- ・4月に一般公開の「明治大学登戸研究所資料館」と、明治大学での展示が可能か相談。

- ・医学会総会展示会場（1小間約37万円、1スペース約140万円、8月末申込締切）、及び文京区展示施設会場（7が月前受付で抽選）も、それぞれ制約はあるが検討する。

(3) C群：医療倫理・生命倫理の検討について

責任者の山口常任世話人より、「医療倫理・生命倫理の基本的考え方—医学・医療の将来への提言」（当日配布資料参照）のメモをもとに、意見交換したことの報告が行われた。

「基本的な考え方」で示された柱は、下記のとおり。

- ①医療・医学の本質に「善の側面」と「悪の側面」が常に存在
- ②「悪の側面」が最も露骨に現れたのが731部隊における人体実験、生体解剖
- ③戦後の日本医学界（会）は、その反省・克服の作業をしていない
- ④その結果、戦後のわが国で医療倫理・生命倫理に反する臨床行為が重なり、今後の先端医学・生命科学の分野で様々な反人道性、危険性を孕んでいる。

（④の個別項目と前回にパネル展示されなかった資料は、当日配布資料参照）

(4) 各群別担当者の変更・追加について

4月の常任世話人会で確認した各群別の担当者案（お願いしたい方を含む）について、開催案内状に「各群別担当のお願いとご希望の集約」の通知で、寄せられた変更や追加の希望などをふまえた案は、以下のとおり。

なお、希望が未定の方は今後ともお願いするなど担当の補充・変更もありえる。事務局長は、全体の進行状況を把握し必要な課題に対応する。事務局は、今後の進捗状況により調整する。

A群（歴史検証）—主に731部隊などでの人体実験を中心とする歴史検証

責任者：吉中常任世話人

担当者：石川、塩安各代表世話人、蒔、小島（荘）、中泉各常任世話人、池田、刈田、川嶋、末永、土屋、松村、村林、湯浅、吉田、若田各世話人

事務局：原、木村、杉浦、小林各氏

B群（国際シンポ）—ドイツ等との比較検証史の教訓から日本は何を学ぶか

責任者：小俣常任世話人

担当者：西山代表世話人、市野川、児嶋（徹）、長島、浜野各世話人

事務局：室井、鈴木各氏

C群（医療倫理）—歴史検証の結果などから、今後の医療倫理に生かすべき教訓は何か

責任者：山口常任世話人

担当者：赤羽根、肥田、光石、車谷各常任世話人、飯塚、片平、小松、田中各世話人

事務局：長瀬、遠藤、相場各氏

4. 第28回日本医学会総会等への要請について

(1) 日本医師会・原中勝征会長への要請について

住江保団連会長（当会事務局長）と原中日医会長の懇談の機会に要請を予定した。しかし、事情で延期され7月29日（木）となった。この日に改めて要請する。

(2) 日本医学会総会・矢崎会頭との懇談の検討について

民医連が医師研修との関係で矢崎会頭と接点があることも生かして打診したい。

5. 防衛省への731部隊等に関する資料公開要請について

鳩山政権の資料公開要請に対する回答は、責任の所在も内容も極めて不十分であった。これらの経過をふまえて、当面の要請窓口として長島昭久防衛政務官（衆議院東京21区選出）を

予定した。しかし、鳩山首相と小沢幹事長の突然の辞任に伴い、菅新政権の発足、参議院選挙となったことから、その結果もふまえて、政務三役に直接要請するよう準備する。

要請の要点は、①当会からの「731部隊関係資料等の全面公開の要請」に対する民主党（防衛三役）からの返答は、責任の所在も内容も不十分で遺憾である。今後は、誠意ある対応を求める、②731部隊による「人体実験」など、医学・医療にかかわる資料の存在にも言及して、資料の調査と公開を求める、の二点を柱とする。

要請文と対応は、松村世話人が代表をされている「731細菌戦部隊の実態を明らかにする会」と連携し、助言もいただきながら、要請文を代表世話人と事務局長の合議でまとめる。

防衛三役や防衛省などへの要請は、できるだけ在京の世話人会構成員で対応できるよう相談して具体化する。

6. 世話人会名簿の整理、各団体・個人の賛同、募金状況、出版物の報告

(1) 世話人会構成員の補充と辞任等について

以下の異動を確認し、世話人会名簿を更新することとした。

①世話人会構成員の補充と辞任

補充 世話人 長島 隆 東洋大学教授
世話人 藤末 衛 全日本民主医療機関連合会会長
辞任 世話人 川村 実 二和ふれあいクリニック院長

②職名等の変更について

代表世話人 塩安佳樹 前東京保険医協会会長（会長交代）
常任世話人 小島荘明 東京大学名誉教授（国際医療福祉大学教授は退官で削除）
常任世話人 肥田 泰 元全日本民主医療機関連合会会長（会長交代で前から元）
世話人 片平冽彦 新潟医療福祉大学大学院教授（東洋大学教授から変更）
世話人 鈴木 篤 前全日本民主医療機関連合会会長（会長交代で前）

③事務局の交代と補充について

東京民医連 小嶋博之（事務局次長）→ 杉浦秀明（医師部副部長）に交代
全日本民医連 遠藤 隆（事務局次長） 補充

(2) 賛同、募金の到達状況、及びパネル集、ブックレットの在庫と今後の販売の報告 5月31日現在の到達状況等が報告された（詳細は、事前・当日配布資料参照）

7. その他

(1) 次回会議予定

第5回世話人会、2010年8月22日（日）11時～16時 東京保険医協会で開催。

(2) 参考資料

- ①明治大学「平和教育登戸研究所資料館」一般公開の新聞報道
- ②山梨平和ミュージアム企画展（飯塚世話人より紹介）
- ③第77回日本医学会定例評議員会（日医雑誌10年5月号より）
- ④医師の倫理・資質向上について—各国に学ぶ（日医雑誌10年5月号「特別記事」）
- ⑤日本医師会の時代遅れの医療倫理観
（大阪中央病院顧問：平岡諦氏「医療ガバナンス学会誌」より）

以上